

医科研究会

糖尿病外来での私の工夫

～内服薬の使い方も含む～



今村 洋一先生

7月26日(金)、今村洋一先生(当会常任理事)を講師に、医科研究会「糖尿病外来での私の工夫」内服薬の使い方も含む」をアバンセとオンライン配信を併用して開催しました。会場は8医療機関等から8人、オンラインでは71医療機関から71人の参加がありました。以下参加者からの報告です。

開業してだいぶ時間が経つのですが、いまだに考えることは自分のクリニックの構造は？患者さんへの対応は？これだよいのだろうかということ。その点今回の今村先生のお話は目からウロコが落ちるようなことばかりでした。医院を改築したことで駐車場が狭くなったが、駐車場は狭いほうがいいと言葉を聞いた

だき、長年の悩みが消えました。また、糖尿病患者さんに対する必要な検査、検査項目、回数など一般内科として対応していることとしては、非常に役立つものでした。一般の疾患と糖尿病という特殊性のため、医師が治療にあたる本人に努力してもらうことが多く、本人のやる気が左右されると思っていました。糖尿病病専門医だけでなく、私たち一般内科もより頑張らねばと思えました。

他には自動車保有台数の増加とエネルギー摂取量の占める脂肪の割合の増加と相関関係があること、「糖尿病治療目的が糖尿病のせいではないの人生を左右されてはならない」なら、合併症を作らなくすることが大事である」などの話がありました。また、「糖尿病の患者は医師のアドバイスを聞かない」と決めつけてはならない、また、私にとっては耳に痛いことでもあります。また合併症予防に食べ

るもの、血圧やコレステロールも高い人は、それらの疾患を薬物でコントロールすることができるといったため、HbA1cが高くても合併症予防ができると思き少し光明が見えました。今回は貴重なお話をありがとうございました。(玄海町 田淵 吉延)

新理事紹介



江頭 泰博 理事

佐賀市で内科・循環器内科を標榜診療しています江頭泰博(えとう やすひろ)と申します。1984年8月、保険医協会と同じ大樹生命ビル(当時は三井生命ビル)内に父が無床診療所を開設しました。2010年10月私が継承し現在地へ移転しています。ご縁がありこの度理事に就任いたしました。少しでもお役に立てるよう心がけますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



診療に活かせる多くのお話があった

歯科研究会

医療安全対策等学習会

「歯初診」「口管強」「外感染1,2」「外安全1」「歯援診」の施設基準対応講演会

7月27日(土)、黒川英雄先生(別府口腔保健センター口腔外科)を講師に、医療安全対策等学習会をアバンセとオンライン配信を併用して開催しました。会場は39医療機関等から58人、オンラインでは207医療機関から219人の参加がありました。以下参加者からの報告です。

★高齢者の心身の特性、認知症への対応について

高齢者は、感染防御機能や治癒能力や薬剤反応性が低下し、合併症は増加するといったように生理機能が低下していきま。個人差も大きく、身体状態に個体差を十分に考慮した対応が求められます。高齢者は摂食・咀嚼・嚥下の機能低下により、健康状態がフレイル(生活機能障害や可逆性状態)に陥りやすい状態に陥りやすい(サルコペニア)という筋減少による不可逆性の運動機能障害(起こす)となつていくことが懸念されます。ここで重要なことは、義歯治療をも含めた咀嚼能力を維持回復しておくことです。また、口腔機能低下として嚥下障害が見られ、その機能低下は舌機能を主体とした機能低下であるので、舌機能の向上に努めておくことです。次に認知症への対応です。認知症は大半がアルツハイマー型認知症であり、進行性病変であり治りません。認知症の中心となる症状として記憶障害や見当識障害が見られ

経の異常で息が吸えない感覚に襲われているだけであり身体上の異常は何もない状態です。しばらく待つ、あるいは話しかけて安心させることで呼吸が抑制されて自然と回復するのを待つということになります。それから歯科に関連して、異物の口腔内落下により気道に異物が入るアクシデントがあります。呼吸器症状があり、窒息しているならば、まずは背部叩打法を、次に腹部突き上げ法で異物の除去を試みます。ただし、妊婦と乳幼児には腹部突き上げ法は行いません。

★感染症対策等院内感染予防について

歯科における感染は主に接触感染と飛沫感染がほとんどとなります。患者さんの血液・体液から分泌される全ての湿性物質は感染性のおそれがあり、触れる前には手袋、エプロン(ガウン)、マスク、ゴーグルの着用を行い、触れた後は石鹸と流水による手洗い、またはアルコール製剤による擦り込み式消毒を行うこととなります。また新型コロナウイルス感染症への歯科での対策として、ポビドンヨード液でのガラガラうがいがあります。最後に、今回の研修で

★偶発症に対する緊急処置について

現在の心肺蘇生はC-A-Bとなっており、胸骨圧迫(心臓マッサージ)から行うと過呼吸、過換気症候群への対応については、そもそも過呼吸が自律神経



いろいろな複雑な状況への対応について学習しました。これを活かして患者さんに寄り添える医療を行えると感じました。また、記事で触れていない項目もございました。言葉足らずのところもございましたが、今回の研修会は前述のさまざまな施設基準対応研修会ということで、内容が多岐にわたるため、要点を抜粋してのご報告となりました。(ペンネーム C D C)

【参加者アンケート】

(二部抜粋)
・感染対策について再勉強できてよかった。
・多くの施設基準に対応した講習会をまとめて一気に開催して頂けてとても助かっています。
・資料も院内勉強会でも使用しています。

会員限定！ ネットで歯科の施設基準研修が受けられます！

ご不明な点は当会までご連絡ください。(事務局) <https://cypher.ne.jp/ejoin/>



(事務局)